

質問	ウラリット配合錠の簡易懸濁法での投与は可能ですか？
回答	<p>ウラリット配合錠はコーティングを破壊した後であれば、55℃の温湯で5分後にはほぼ崩壊し（フィルム部が若干残る）、10分後には完全に崩壊し8Fr.チューブを通過しています。</p> <p>また、懸濁液は24時間後において含量はありませんでした（24時間後のK, Naの残存率：100%）。詳しくは添付のデータをご覧ください。</p> <p>この資料は本剤の懸濁状態及びチューブ通過性を検討した資料であり、臨床で経管投与した場合の有効性・安全性の評価は行っておりません。</p> <p>本剤をご使用の際には添付文書をご確認の上、医療従事者の裁量と判断のもとに行っていただきますようお願い致します。</p>
参考資料	【ウラリット配合錠】性状変更品（フィルムコーティング錠）の簡易懸濁法に関する資料